

# 20

The Japan Academy of  
Psychiatric and Mental Health Nursing

日本精神保健看護学会

第 20 回 総 会 ・ 学 術 集 会

精神看護のアウトカムー測れるもの・測れないもの

会期 2010年6月19日(土) - 20日(日) 会場 聖路加看護大学

ワー ク シ ョ ッ プ 抄 録 集



[www.japmhn.jp/2010](http://www.japmhn.jp/2010)

# 1.精神医療・看護における医療ニーズと精神看護専門看護師の役割および必要とされる裁量範囲の検討

---

## 企画者

宇佐美しおり(熊本大学)

野末聖香(慶応義塾大学)

福田紀子(慶応義塾大学大学院)

福嶋好重(横浜市立市民病院)

三ヶ木聡子(筑波メディカルセンター)

田代 誠(積善会曾我病院)

佐藤雅美(東京武蔵野病院)

篠木由美(東京武蔵野病院)

江波戸和子(薫風会山田病院)

近年、身体疾患患者で気分障害や適応障害をもつ人々の数の増加、長期入院患者の退院促進の停滞などが、精神医療・看護においても問題となってきています。さらに、医師不足や医療の地域格差、医療の高度化・複雑化に伴い、専門看護師を含む高度看護実践家の育成が急務となってきています。このような状況の中、今回は、精神医療・看護における医療ニーズを明確にし、さらに身体の慢性疾患を有し、適応障害・気分障害を有する患者や入退院を頻回に繰り返すもしくは長期入院患者予備軍の精神障害者、中等度～軽度の抑鬱・不安状態を有する患者の家族・看護師に対し、高度看護実践家としての診断、治療の組み立て、必要とされる介入・裁量について討議を行い、高度看護実践家に必要とされる裁量範囲を明確にしたいと考えています。多くの方々の参加をお待ちしております。

## 2.うつ病の家族心理教育

### ～家族心理教育の理論と実践・うつ病への応用～

---

企画者

香月 富士日 (名古屋市立大学看護学部・認定家族心理教育インストラクター)

\*日本心理教育・家族教室ネットワーク認定

山田 恵己 (慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 修士課程)

企画協力者

内藤 敦子 (名古屋市立大学病院看護部)

うつ病は、年間有病率 1.4～1.6%の高頻度の疾患であり、また、特に日本では年間 3 万人を超える自殺者の背景としてうつ病が関与していると考えられており深刻な社会問題となっています。うつ病の予後については1年後でも約 40%の患者がうつ状態があったという報告があり、また再発も多いことから、患者を支える家族の悩みは深刻です。

このワークショップでは、初めに家族心理教育の理論と積み上げられてきた効果について初心者にもわかるように詳しく話し、その後、効果的な家族心理教育の実践について具体的にお話します。そして、企画者らが日頃取り組んでいるうつ病家族支援、心理教育実践、うつ病家族心理教育の効果研究をご紹介しますながら、ワークショップ形式で模擬家族教室を行います。

### 3.体験グループ

---

企画者

武井麻子 日本赤十字看護大学

小宮敬子 日本赤十字看護大学

昨年度を除き、本学会では毎年行われているワークショップです。丸く輪になって、「語る」「聴く」「感じる」の体験を追求します。決まったテーマはありません。その場で感じたことや頭に浮かんだことをそのまま口に出してみても、どのような感情が湧いてくるかを味わってください。意外な自分に気づくかもしれません。講義ではありませんので筆記用具は必要ありません。いくら話が飛んでも構いませんし、「こんなことを言っているのかな」と躊躇するようなことでも、構いません。むしろ、普段は思っても言えないようなことをぜひ言ってみてください。ただし、無理に話したくないことまで話したり、気を遣って話題を提供したりする必要はありません。

グループの検証のために録音しますが、無断で内容が公表されることはありませんので、ご理解のうえご参加ください。

## 4.看護チームで行う認知行動療法

### —統合失調症の入院患者を通して—

---

企画者

北野 進 東京都立松沢病院

高橋寛光 東京都立松沢病院

ここ数年、うつ病の患者に対する看護ケアとして認知行動療法が普及してきていることは皆さんもご存知のことでしょう。日本認知療法学会でも、看護に活かす認知行動療法というシンポジウムも開催され、少しずつ看護と認知行動療法について検討され始めています。

一般的に認知行動療法とは、個別、または集団で行われている構造化された治療的なプログラムという印象をお持ちではないでしょうか。今回のワークショップで行う看護の認知行動療法とは、認知療法をメインとした考えと技法を統合失調症患者に対し看護師個々、さらに看護チーム全体で認知行動療法の理論を用いたアセスメントと介入を行うというものです。看護チーム全体で共通した考えと介入技法を持つことで患者を理解する能力も統一化され、さらに患者の看護チームに対する自動思考もポジティブなものへと変化することにつながると考えています。

当日は参加された皆様と、看護における認知行動療法の活用について有意義なディスカッションも行いたいと考えています。臨床家向きの内容ですが、興味を持たれている方はどなたでもご参加ください。

## 5.うつ病看護に活かす認知行動療法—基礎と実践—

---

企画者

岡田佳詠 筑波大学大学院

矢内里英 埼玉県立精神医療センター

曾根原純子 横須賀共済病院

昨今うつ病は、増加とともに社会生活への多大な影響、自殺との関連などから社会問題ともなっており、精神科看護師には一層、うつ病患者への看護スキルの向上が求められています。

うつ病治療として欧米で効果が検証されている認知行動療法は、認知と行動に働きかけて生活上の問題の解決を図る心理療法です。国内でも平成 22 年度診療報酬改定において、うつ病への認知行動療法の評価が新設されることになり、うつ病への有効な治療とされています。欧米と比べて国内では、看護師が実施するケースは稀ですが、うつ病患者の看護に認知行動療法の考え方・技法を導入できれば、患者の回復への貢献度は大きいと予測されます。

そこで、本ワークショップでは、認知行動療法のビギナーを対象に、認知行動療法・集団認知行動療法の考え方と認知・行動の技法について、講義と個人ワーク、デモンストレーション等を通して学んでいただく予定です。(定員 60 名)

## 6.効果的な臨床実習指導を行うために指導者の力として必要なもの

### ～対応困難な患者を受け持った学生への実習指導の実際をとおして～

---

企画者

川村道子 (宮崎県立看護大学)

小笠原広実(宮崎県立看護大学)

毛利千祥 (宮崎県立看護大学)

福浦善友 (宮崎県立看護大学)

赤星誠 (宮崎県立看護大学)

精神科で実習を行う学生は、心の病を持つ人々へのかかわりに大いに戸惑いを感じながらも、患者さんにとって少しでも良いかかわりを考えながら実習を進めています。そのような学生が、心の病を持つ人々へのかかわりを通して看護出来たと実感できるように、私たち看護教員も、学生の学習過程を精一杯支援していきます。どのような場合でも、学生が看護出来たと実感できるような安定した実習指導を行いたいと思っていますが、学生への実習指導に不全感を抱くこともあります。そこで、学生への実際の実習指導場面を提示しながら、学生に効果的な臨床実習指導を行うために指導者の力として必要なものは何かについて参加者の方々と共に考えていきたいと思っています。学生の受け持ち患者への看護場面や、指導者の学生への指導場面を具体的に提示しながらディスカッションを進めたいと思っています。

## 7.看護実践としての統合失調症患者本人に対する心理教育

---

企画者

松田光信 神戸常盤大学保健科学部看護学科

河野あゆみ 神戸常盤大学保健科学部看護学科

近年、精神医療施設における心理教育は、緩やかですが全国的な広がりを見せ、様々な職種によって行われるようになりました。このような背景から、心理教育を実践する看護師への期待がますます大きくなってきました。しかしながら、慢性的なマンパワー不足に悩む精神医療施設において心理教育を実践するには、少なからず課題があるようです。企画者らは、看護師のチームで運営可能な心理教育を臨床において実践し、心理教育の実践方法を第一線で活躍する看護師に伝えるための活動を実施しています。

本ワークショップでは、臨床において主体的に心理教育を実践している看護師を招き、心理教育の実践方法を修得する過程で経験した苦労および現在の手ごたえについて報告していただきます。また、参加者の皆様には、看護師による心理教育の一部を体験していただき、最後に、全員で看護師による心理教育の発展可能性と課題についての意見交換をしたいと思います。

## 8.精神看護の対話技術「コンコーダンス・スキル」を臨床で使う工夫

---

企画者

安保 寛明 岩手晴和病院

武藤 教志 医療法人北斗会さわ病院

松村 麻衣子 ハートランドしぎさん

森脇 崇 ハートランドしぎさん

藤野 成美 九州大学

富森 玲子 九州大学病院

小林 由紀子 埼玉県立精神医療センター

村山 直子 埼玉県立精神医療センター

コンコーダンス・スキルは、治療者と患者が協力して治療を考え、主体的に治療を選択していくことを重視した看護の対話技術集です。対話技術であるコンコーダンス・スキルは、知識ではなく技術として臨床看護師に浸透していく必要があります。また、看護技術を高めたいと思うだけの熱意を育成する必要もあるでしょう。

このワークショップでは、コンコーダンス・スキルが臨床で活用されるまでをテーマにします。精神科看護師がコンコーダンス・スキルと出会ってからの実践例や困難経験、それらの過程でなされた工夫を紹介し、対話技術が臨床で活用されるための示唆が生まれる会にする予定です。

\*初参加者のために、コンコーダンス・スキルの紹介を兼ねた演習を予定しています。

\*研修例や自主活動を実感する目的の演習を行うため、人数を限定する予定です。

## 9. 児童・思春期精神科看護の専門性～看護師だからできること～

---

企画者

船越明子(三重県立看護大学)

アリマ美乃里(国際医療福祉大学)

服部希恵(名古屋第一赤十字病院)

土田幸子(三重大学)

児童・思春期精神科病棟での入院治療においては、看護師は子どもの生活全般に関わり、きわめて重要で中心的な役割を担っています。子どもへのケアのみならず、他職種との連携や親への対応などその看護領域は多岐にわたり、特殊かつ専門性が非常に高いといえます。ワークショップでは、子どもへのケアと家族へのケアに関する最近の調査研究をご紹介します。児童・思春期精神科看護の専門性についてディスカッションしたいと思います。児童・思春期精神科病棟に現在勤務されている方や研究者だけでなく、こころの病を抱えた子どもへのケアに関心がある方のご参加をお待ちしています。“専門性”といえば、堅苦しく難しい印象をうけますが、専門性は私たちが実際に行っている日々の看護実践の中にこそあるのではないのでしょうか。日々の看護実践を振り返り、“看護師だからできること”を見つけていきたいと思います。

## 10.統合失調症患者への認知行動療法

### ～機能分析的アセスメントと介入の実際～

---

企画者

三上勇氣(福井県立大学看護福祉学部)

皆さんもご存じのように、認知行動療法はエビデンスベーストな介入法です。そのため、本大会の大会テーマでもある精神看護のアウトカムの評価方法として「①アセスメント②患者さんの合意③アプローチ④仮説の立証とアプローチの評価」という看護過程とほぼ同一のプロセスを辿るケースフォーミュレーションを用いながら、的確なアセスメントと効果的な介入方法の選択が必要となってきます。

そこで今回は、日本行動療法学会認定行動療法士による患者さん理解のための機能分析的アセスメントと、病識獲得のための介入の実際についてのワークショップを行いたいと思います。既に認知行動療法を実践している方だけではなく、これから学び始める方も、一緒に「看護における認知行動療法」について考えていきましょう。

## 11.精神看護領域における看護診断を用いた記録

### -ウェルネス看護診断の考え方-

---

企画者

白石壽美子(帝京大学)

池田慎吾(浜松市立看護専門学校)

茂木泰子(つくば国際大学)

藤木眞由美(帝京大学)

武政奈保子(東都医療大学)

酒井克子(足利短期大学)

竇迫佳代子(都立南多摩看護専門学校)

安保敏枝(都立府中看護専門学校)

八田由利子(陽和病院)

今回は、「精神看護領域における看護診断を用いた記録—ウェルネス看護診断の考え方」をテーマとして取り上げました。これまで我が国の保健医療活動は、主に問題志向で展開され、健康増進にはあまり重きがおかれませんでした。しかし、その中で精神看護師は早くから患者の健康な部分に目を向け、その部分を広げることにより障害を最小限にする努力をしてきました。ウェルネス志向の看護を実践して来っていますが、その看護の過程や成果の記録が十分ではありません。そこで、「患者の強み」に焦点をおいた看護診断の有用性について考えると共に、看護診断の知識を活用して記録ができるように、「ウェルネス看護診断の基本的な考え方」についてレクチャーを行い、ウェルネス看護診断の定義や概念などについて共有化します。その上で、グループに分かれてケーススタディを行い、この看護診断を導く過程や記述のしかたなどについて学びます。